

## 授業の視点

資質・能力を育てる協力指導の在り方

— 算数・外国語の単元デザインを通して —

### 3年 How many? 数えてあそぼう。

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することにより目指す子どもの姿

※○印は本単元と関連のある子どもの姿

<知識及び技能>

①日本語と外国語の違いに気付き、生きて働く知識として理解する子

②1～20までの数を話したり聞いたりすることで、外国語の基本的な表現を身に付ける子

<思考力, 判断力, 表現力等>

③既習の知識や経験と、新たな知識を活用してコミュニケーションを図る子

④読書冊数やおすすめの本などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合ってコミュニケーションを図る子

<学びに向かう力, 人間性等>

⑤外国語の背景にある文化に対する理解を深めようとする子

⑥相手の理解を確かめながら話したり、共感的に受け止める言葉を返しながらかいたりしようとする子

⑦20までの数についての外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、進んで使おうとする子



#### 本単元における目指す子どもの姿(上記の②④⑦を受けて)

<知・技> 数を表す語句と身の回りの数について尋ねる表現を用いて、やり取りができる子

<思・判・表> 身の回りの物の数について考え、伝え合うことができる子

<学> 相手に伝わるように工夫しながら、身の回りの数について伝え合おうとする子



#### 本単元における手立て(単元デザイン)

本単元で児童が生き生きと対話することができるように、本単元の言語活動におけるコミュニケーション系統図を作成する。また、コミュニケーション系統図を活かして単元指導計画の作成に当たる。

##### 【コミュニケーション系統図の作成】

・どのように対話を発展させるか、コミュニケーション系統図を作成して明らかにする。

##### 【資質・能力を高める対話活動】

・学校生活で身の回りの物の数を数えたり、尋ねたり、答えたりする姿を提示する。

・動作と歌詞を連動させ、20までの数を順に唱えられるようにする。

・言語活動を2段階に分けて中間の振り返りをし、次の活動がよりよいものになるようにする。

##### 【見方・考え方を確かめる振り返る活動】

・板書をもとに20までの数を伝え合う学習のポイントを整理し、本時の活動でできるようになったことを価値付ける。

・視点を示して学習感想を書くことで、20までの数の数え方や伝え方について気付いたことを確認・自覚することができるようにする。

## 第3学年外国語活動学習指導案

児童 3年3組35名  
場所  
授業者

### 1 単元名 How many? 「数えてあそぼう」(Let's Try!1 Unit3)

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

本単元では、1から20までの数を数える活動や数を尋ねたり、答えたりする活動を行うことにより、日本と外国の数の数え方に触れ、多様な考え方があることに気付き、20までの数の言い方に慣れ親しむことをねらいとしている。そのために、歌やゲームなどの活動を取り入れながら、実際に身の回りの物の数を数えたり、尋ねたり、答えたりする活動が中心となる。

これらの活動を通して、1から20までの数の音やアクセントに慣れ親しむとともに、身の回りの物の言い方にも触れることができると考える。児童にとって身の回りの物の数を題材にすることは、児童が必然性をもって主体的に数えたり、尋ねたり、答えたりする活動を行い、楽しみながら繰り返し英語の表現に触れ、慣れ親しんでいくことができるようになることにつながっていくと考える。

また、英語以外の言語での数の言い方にも触れていくことにより、様々な言い方で数を表現する面白さにも気付くことができると考える。

##### (2) 児童について

3年3組の児童は、初めての外国語活動に興味関心をもち、歌やジェスチャー、ゲームなどを楽しみながら活動している。また、様々な活動の中で、聞き取った英語をできるだけ使おうとしたり、ジェスチャーをヒントに何とか理解しようとしたりする姿が見られる。

英語を使ったコミュニケーション活動では、英語を話すことができた喜びや、みんなと一緒に活動することの楽しさ、もっと英語を使いたいという気持ちが感じられる。しかし、自分からは進んで友達とコミュニケーションを図ることのできない児童や、相手の話を最後まで落ち着いて聞くことが難しい児童が数名いる。

そこで、本単元ではペアでのやり取りを中心に行い、より多くの友達と伝え合う場を設定していくことにより、相手の話をしっかりと聞いたり、いろいろな友達とコミュニケーションを図る楽しさを感じたりすることができるようにしていきたい。

##### (3) 指導にあたって

本単元では、20までの数の英語での数え方に慣れ親しむことができるように、児童にとって身の回りの物を題材にすることで、活動への意欲付けを図っていく。また、リズムにのって繰り返し話すことのできる歌やチャンツ、多くの友達と楽しみながら主体的に活動したくなるような様々なゲームなどを意図的に設定したりすることによって、児童が繰り返し英語の表現に触れ、英語を使ったやり取りに慣れ親しむことができるようにしていく。このような経験を積んでいくことにより、児童が自信をもって、主体的に外国語活動に取り組んでいくことができるようにしていきたい。

また、コミュニケーション活動においては、児童にとって必然性のある活動となるよう、読書教育と結び付け、3年生になってからの読書冊数を伝え合うペアでの活動を単元のゴールに設定する。読書冊数だけでなく、おすすめの本についても伝え合うことにより、読書への意欲付けを図るとともに、自分の考えを友だちと伝え合う楽しさを感じることもつなげていきたい。

##### 【資質・能力を高める対話活動】

- ・学校生活で身の回りの物の数を数えたり、尋ねたり、答えたりする姿を提示する。
- ・動作と歌詞を連動させ、20までの数を順に唱えられるようにする。
- ・言語活動を2段階に分けて中間振り返りをするにより、次の活動がよりよいものになるようにする。

##### 【見方・考え方を確かめる振り返り活動】

- ・板書をもとに20までの数を伝え合う学習のポイントを整理し、本時の活動でできるようにな

ったことを価値付ける。

- ・視点を示して学習感想を書くことで、20までの数の数え方や伝え方について気付いたことを確認・自覚することができるようにする。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

3年生になってからの読書冊数を伝えるために、相手に伝わるように工夫しながら、20までの身の回りの物の数について尋ねたり答えたりして伝え合う。

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

#### (2) 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと【やり取り】	日本と外国語の数の数え方の違いから多様な考え方があることに気付き、1から20までの数の言い方や数の尋ね方について慣れ親しんでいる。	今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合っている。	今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合おうとしている。

### 4 単元の指導・評価計画（4時間扱い）

時	目標	学習内容 (指導内容)	評価			
			知技	思判表	態度	評価規準 評価方法
1	1～10の数の言い方に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Hello Song</li> <li>・ 身の回りの物の言い方を知る。</li> <li>・ Let's Play2</li> <li>・ ミッシングゲーム</li> <li>・ Let's Sing : Ten Steps</li> </ul>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2	日本と外国語の数の数え方の違いから、多様な考え方があることに気付き、1～20の数の言い方に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Sing : Ten Steps</li> <li>・ Let's Watch and Think</li> <li>・ 様々な物の数を数える。</li> <li>・ ビンゴゲーム</li> </ul>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
3 本時	20までの身の回りの物の数を相手に教えるために、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Sing : Ten Steps</li> <li>・ クラップゲーム</li> <li>・ おはじきゲーム</li> </ul>	や	や	や	<p>「話すこと [やりとり]」の記録に残す評価</p> <p>○日本と外国語の数の数え方の違いから多様な考え方があることに気付き、1から20までの数の言い方や数の尋ね方について慣れ親しんでいる。〔行動観察〕</p>

						<p>◎今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合っている。〔行動観察〕</p> <p>○今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合おうとしている。〔行動観察・振り返りシート〕</p>
4	相手に伝わるように工夫しながら、20までの数を尋ねたり答えたりして伝え合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Hello Song</li> <li>・ Let's Chant</li> <li>・ 読んだ本の冊数やおすすめの本などについて伝え合う。</li> </ul>	や	や	や	<p>「話すこと [やりとり]」の記録に残す評価</p> <p>○日本と外国語の数の数え方の違いから多様な考え方があることに気づき、1から20までの数の言い方や数の尋ね方について慣れ親しんでいる。〔行動観察〕</p> <p>○今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合っている。〔行動観察〕</p> <p>◎今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、身の回りの物の数について、1から20までの数の言い方や数の尋ね方を用いて、学級の友達に質問したり質問に答えたりして伝え合おうとしている。〔行動観察・振り返りシート〕</p>

## 5 本時の指導（3/4）

### （1）目標

20までの身の回りの物の数を相手に教えるために、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。

### （2）指導に当たって

#### 【資質・能力を高めるための対話活動】

- ・ 動作と歌詞を連動させ、20までの数を順に唱えられるようにする。
- ・ 学校生活における身の回りの物の数を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことができるようにするために、ゲームを通して尋ねたり答えたりして伝え合う姿を提示し、段階を踏んで活動する場を設定する。
- ・ 言語活動を2段階に分けて中間振り返りをするることにより、活動のルールや伝え合い方について確認し、よりよい活動をすることができるようにする。

#### 【見方・考え方を確かめる振り返る活動】

- ・ 板書をもとに、20までの数を尋ねたり答えたりする伝え合い方について整理し、本時の活動で

できるようになったことを価値付ける。

- ・分かったことについて学習感想を書くという視点を与えることにより、児童が本時の学びを確認し、自覚することができるようにする。

(3) 展開

段階	児童の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ◆研究の重点 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 評価
導入 8分	1 挨拶をする。 Hello. ~ sensei.  I'm fine/happy/good/ sleepy/hungry/ tired/sad/great. How are you?  2 Let's Sing: Ten Steps	・挨拶をする。 Hello. How are you?  I'm fine/happy/good/sleepy/ hungry/tired/sad/great.  ・ジェスチャーをしながら、一緒に歌う。	・全体で挨拶をした後、児童に今日の様子を聞く。  ◆動作と歌詞を連動させ、20までの数を順に唱えられるようにする。
展開 30分	3 めあての確認をする。  4 クラップゲーム  5 おはじきゲーム	・次回の学習で自分たちが読んできた本の冊数を伝え合うことを知らせる。 ・本の冊数を伝え合うために、どんな学習が必要かを考えるよう促し、数を尋ねたり答えたりする言い方を学ぶ必要感をもたせられるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いくつあるかを たずね合おう。</div> ・児童と一緒にやりながら、ゲームの仕方を伝える。 ・慣れてきたら、リズムの速さを変えらる。  ・児童のボランティアとともに、ゲームの仕方を伝える。 ・巡回する際、「(数) marbles.」と答えられているか、確認する。 ・中間振り返りで、活動をしてみて困ったことを確かめたり、うまく伝え合っているペアを紹介したりして、2段階目の活動につなげる。	・単元のゴールに必要な活動への見通しをもつことができるようにする。  ◆学校生活における身の回りの物の数を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことができるようにするために、ゲームを通して尋ねたり答えたりして伝え合う姿を提示し、段階を踏んで活動する場を設定する。  ・指導者と児童の対話活動から児童同士の対話活動へと段階を踏んで活動することで、数を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことができるようにする。 ◆言語活動を2段階に分けて中間振り返りをするにより、活動のルールや伝え合い方について確認し、よりよい活動をすることができるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 20までの数を数え、数について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 (行動観察)

終末 7分	6 振り返りをする。 ・振り返りシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           いくつあるかの聞き方や答え方が分かりました。次は、本の数を伝え合いたいです。         </div> 7 挨拶をする。	・本時の学習について分かったことを中心に学習感想を書くよう促す。 ・学びの価値付けを行う。  ・挨拶をする。 Good-bye, see you.	◆板書をもとに、20までの数を尋ねたり答えたりする伝え合い方について整理し、本時の活動でできるようになったことを価値付ける。  ◆分かったことについて学習感想を書くという視点を与えることにより、児童が本時の学びを確認し、自覚することができるようにする。
----------	--	---	--

(4) 板書計画

いくつあるかを  
たずね合おう。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

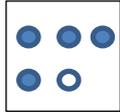
人物  
の絵

人物  
の絵

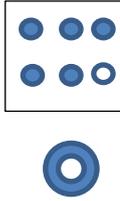
**MENU**  
 1 あいさつ  
 2 Let's Sing  
 3 Activity  
 4 ふりかえり

身の回りの  
物の絵

身の回りの  
物の絵

人物  
の絵  
  




人物  
の絵  
  




【単元目標】

今まで読んできた本の冊数を伝え合うために、相手に伝わるように工夫しながら、身の回りの物の数について、尋ねたり答えたりして伝え合う。

(4) 友達と協力して課題を達成するコミュニケーション活動

「本の数を伝えよう」

How many books ?

thirteen books.

何がおすすめ ?

スイミー

おもしろいところはどこ ?

スイミーが大きな魚になるところ

読んでみて

単元構造 (授業づくり) の流れ

子どもの学習の流れ

(3) やり取りに慣れ親しむ活動

「数当てゲーム～おはじきはいくつかな～」

How many marbles ?

eleven marbles.

Let's count.

one, two, three, ...  
eleven marbles!!

(2) より様々な語彙や表現に慣れ親しむ活動

「ビンゴゲーム」

one, two, three, ... twenty.  
Fourteen erasers, pencils,  
rulers, apples,

(1) 新しい表現に出会う活動

「数を数えよう」

one, two, three, ... ten.  
Ten erasers, pencils, rulers, apples